

宮私幼だより

No. 139
 一般社団法人 宮城県私立幼稚園連合会
 〒980-0803
 仙台市青葉区国分町三丁目6-12
 佐正第二ビル6F
 TEL 022-263-7040 FAX 263-7925
<http://www.miyashiyo.or.jp/>
 編集・発行人
 理事長 村 山 十 五



事務局だより

○関係機関団体

9月12日 仙私幼教育振興大会・仙私幼PTA研修大会（イズミティ21）
 10月10日 県10年研
 10月22日 第38回宮私幼PTA親善バレーボール大会（セキスイハウススーパアリーナ）
 10月28日 第36回宮城県私学振興大会（中高連・電力ホール）
 10月30日～11月3日 宮城県造形教育作品展（県美術館）
 11月8日 宮城県子ども・子育て会議（県庁）
 11月14日 仙私幼設置者・園長研修会（旭ヶ丘市民センター）
 1月7日 仙私幼教員研修大会（仙台市民会館）
 2月21日 宮城県次世代育成支援対策地域協議会（県庁）

○全日私幼連

9月18日 102条園研究会議（東京）
 9月26日 第6回都道府県政策担当者会議（東京）
 10月18日～19日 第28回東北地区私立幼稚園教員研修大会（岩手大会）
 10月21日～22日 第29回設置者・園長全国研修大会（北海道）
 11月11日 東北地区全教育研究・経営研究・政策総務担当者連絡協議会（山形）
 11月12日 子ども・子育て支援新制度対応のための合同会議（東京）
 12月4日 団体長会・理事会合同会議（東京）
 1月23日～24日 「全国研究研修担当者会議」（京都）
 1月30日 団体長会・理事会合同会議（東京）
 2月7日 102条園研修会（東京）
 2月16日 こどもがまんかPROJECT 杉山兄弟シャボン玉ショー（イズミティ21）
 2月17日 第3回地方版「子ども・子育て会議」対応研修会（東京）
 2月21日 後継者育成研修会（東京）
 2月24日 第2回東北地区会・団体長会議及び事務局局長会議（山形）
 3月5日 団体長会・理事会合同会議（東京）
 3月24日 免許状更新講習（第4回）選択（仙台市民会館）



（2頁に続く）

巻 頭 言

宮私幼理事長 村 山 十 五



卒園式も終わり、ちょっと一息、桜便りが待たれる季節となりました。震災から三年が過ぎました。新聞の紙面は、震災その後ということで、被災地の様子を伝えております。テレビで見る限り、津波被害からの復旧はまだまだの様で心が痛みます。そんな中、東松島市の のびる幼稚園と名取市の 関上わかば幼稚園がこの4月から再開することになり、関係者の皆様のご努力に頭が下がる思いであります。連合会としても、引き続き、応援をしてまいります。

さて、先日の園長研修会では、改正こども園法について、県の担当者から詳細な説明がありました。時間の関係で、質疑応答ができなかったことが心残りであります。次回の研修会には、公定価格も示されるものと思われます。認定こども園に移行するのしないのか、決断の時期でもあります。「子どものことを第一に考えるのか」「親の働き方を優先するのか」「経営に視点をおくのか」さまざまな情報を発信してまいります。些細なこと

ではありますが、個々の幼稚園の相談にも応じられるよう、体制を整えていきたいと考えております。

平成26年度の事業計画と予算案が先日の総会で承認されました。役員改選の時期でもあります、6月の東北地区園長研修会、夏の研修事業等が滞りなく推進できますよう、現役員で準備を進めております。各地区におかれましては、役員の先生を中心に、スムーズな引継ぎをしていただき、次期の理事候補者の選任、委員会の協力委員の選出等、改めてご協力をお願い申し上げます。

教員不足の声が届いております。待遇改善、勤務時間の見直し等々、業界全体で取り組まなければならない課題と考えております。

この一年間、会員の皆様方のご協力とご支援に感謝申し上げ、今年度の最後の挨拶とさせていただきます。

○ 慶 弔
3月15日 日
2月12日 日
1月28日 日
11月16日 日
11月9日 日
11月6日 日
10月20日 日

矢本はなぶさ幼稚園創立30周年記念式典
平成25年宮城県教育功績者表彰 岩岡明子先生
岩沼南こばと幼稚園創立40周年記念式典
学校法人聖光学園（塩釜聖光幼稚園）創立100周年記念式典
菅野 貞子 氏（めるへの森幼稚園 前理事長）ご逝去
中村 守道 氏（小鳩幼稚園 理事長）ご逝去
ゆりかご幼稚園創立45周年記念式典

3月24日 日
3月10日 日
3月7日 日
3月5日 日
2月26日 日
2月21日 日
2月20日 日
2月14日 日
2月12日 日
1月29日 日
1月23日 日
1月14日 日
1月10日 日
12月12日 日
12月4日 日
11月29日 日
11月19日 日
11月15日 日
11月14日 日
11月13日 日
11月7日 日
10月23日 日
10月10日 日
10月9日 日
10月1日 日
9月30日 日
9月20日 日
9月5日 日
9月4日 日

宮城県監査委員監査・総務給付委員会
知事陳情
経営委員会
研究委員会・第2回地区研修担当者連絡会
総務給付委員会
設置者園長研修会・臨時総会（東京エレクトロンホール宮城）
研究委員会
102条園研修会の伝達講習会
常任理事会・総務給付委員会合同会議
総務給付委員会
通常理事会・広報委員会
研究委員会・教育研究発表大会事前打合せ
総務給付委員会
設置者園長研修会・定時総会・広報委員会（仙台市戦災復興記念館）
研究委員会
宮私幼教育研究発表大会（仙台市民会館）

○ 宮私幼のあゆみ

9月4日 日 研究委員会
9月5日 日 総務給付委員会
9月20日 日 「東日本大震災の記録」・「宮私幼40年のあゆみ」発行
9月30日 日 臨時常任理事会
10月1日 日 一般社団法人へ移行
10月9日 日 総務給付委員会
10月10日 日 臨時理事会・広報委員会
10月23日 日 研究委員会
11月7日 日 石巻地区教育振興大会・PTA研修大会
11月13日 日 常任理事会・総務給付委員会合同会議
11月14日 日 決算監査会
11月15日 日 臨時理事会・広報委員会
11月19日 日 研究委員会
11月29日 日 設置者園長研修会・臨時総会（東京エレクトロンホール宮城）
12月4日 日 総務給付委員会
12月12日 日 研究委員会・第2回地区研修担当者連絡会
1月10日 日 経営委員会
1月14日 日 知事陳情
1月23日 日 宮城県監査委員監査・総務給付委員会
1月29日 日 研究委員会
2月12日 日 102条園研修会の伝達講習会
2月14日 日 常任理事会・総務給付委員会合同会議
2月20日 日 総務給付委員会
2月21日 日 通常理事会・広報委員会
2月26日 日 研究委員会・教育研究発表大会事前打合せ
3月5日 日 総務給付委員会
3月7日 日 設置者園長研修会・定時総会・広報委員会（仙台市戦災復興記念館）
3月10日 日 研究委員会
3月24日 日 宮私幼教育研究発表大会（仙台市民会館）

「地区別設置者園長会議」報告

毎夏恒例の設置者園長会議が県内7地区において行われました。各地区共通の話題は何と言っても新・認定子ども園法がどうなるのか…でありました。この問題は去年の8月から現在においても、公定価格を始めとした、根幹の部分が決まっていないため、我々設置者として判断基準があやふやかと思われます。皆様方におかれましてはアンテナを張り巡らせながら新しい情報を注視していく必要があるでしょう。もう一点の話題としては、職員採用が年々厳しい状況になっているようです。特に人口減少地域では、養成校に何度呼びかけて

も、一人も受験者がこない園もあったとのことです。学生の保育士志向の要因は様々あるのでしょうが、教育実習で必ず一度は来園する学生への指導の中で、幼稚園教師の魅力や生きがい話を話してあげる等しながら、学生が就職先として幼稚園に強い関心を向けてもらえるよう、各園それぞれで努力していただきたく、この場を借りてお願い申し上げます。今夏の園長会議の時期には例年以上の先生方に出席していただきながら、活発な意見を交換する場となるべく準備をしてまいる所存であります。

(経営委員長 末 屋 保 広)



Close・up 理事会

平成25年度宮私幼理事会の概要

【第1回臨時理事会】

日 時 平成25年10月10日(木) 午後2時～

場 所 宮私幼会議室

報告事項

- (1) 一般社団法人への移行について
※ 登記日：平成25年10月1日(火)
- (2) 「40年のあゆみ」、「東日本大震災記録誌」及び「白書」の合本の発行について

議 事

- (1) 平成25年度補正予算について
特例社団法人(4月～9月)
- (2) 平成25年一般社団法人宮城県私立幼稚園連合会臨時総会の日程について
- (3) 新法人の役員の任期について
- (4) 放射線量測定器の返還について
- (5) 定款第45条に基づく「なとり保育園」「くりっこ保育園」の退職手当資金給付事業加入の承認について
- (6) 広報委員会の協力委員について
- (7) その他

【第2回臨時理事会】

日 時 平成25年11月15日(金) 午後2時～

場 所 宮私幼事務局

議 事

- (1) 平成25年度一般社団法人宮城県私立幼稚園連合会第1回臨時総会の議案書について
- ① 「一般社団法人設立」に伴う特例社団法人解散の決算について

報告事項1 一般社団法人認可について

【設立登記日：平成25年10月1日】

報告事項2 東日本大震災義捐金状況について

第1号議案 平成25年度(4月～9月)事業報告について

第2号議案 平成25年度(4月～9月)一般会計・退職手当資金給付事業補正予算(案)について

第3号議案 平成25年度(4月～9月)一般会計・退職手当資金給付事業特別会計決算報告並びに監査報告について

② 一般社団法人設立に伴う事業計画(案)等について

第4号議案 平成25年(10月～3月)事業計画(案)について

第5号議案 平成25年(10月～3月)一般会計収支予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支予算(案)について

第6号議案 新役員(案)について

(2) 平成25年度一般社団法人宮城県私立幼稚園連合会第1回臨時総会の議長・議事録署名人名及び司会者について

(3) その他

- ・平成25年度教育功績者表彰：岩岡 明子先生(中新田)
- ・平成25年度私立幼稚園に対する補助金等調査表について

【平成25年度通常理事会】

日 時 平成26年2月21日(金) 午後2時～

場 所 宮私幼会議室

議 事

(1) 平成25年度定時総会の議案書について

第1号議案 平成25年度一般会計収支補正予算(案)退職手当資金給付事業収支補正予算(案)並びに受託事業収支予算(案)について

第2号議案 (一社)宮城県私立幼稚園連合会定款の一部改正(案)について

第3号議案 退職手当資金給付事業運営規則の一部改正(案)について

第4号議案 平成26年度事業計画(案)について

第5号議案 平成26年度一般会計収支予算(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支予算(案)について

平成25年度 臨時総会

平成25年11月29日(金) 14:00～ 東京エレクトロンホール宮城

本臨時総会は、鎌田文恵副理事長の開会の挨拶、「幼稚園賛歌」斉唱に続いて、村山十五理事長のあいさつでは、平成25年10月1日より前社団法人から一般社団法人に移行したので、4月から9月までの事業報告、決算報告と新法人設立に伴う事業計画案、役員案について審議いただきたいと話されました。また、のびる幼稚園、閑上わかば幼稚園（美田園わかば幼稚園）が26年4月より再開できるようになったこと、東京電力より放射能測定器の一部補償が出るようになったことも報告されました。

来賓祝辞では、宮城県総務部私学文書課狩野宏史副参事から、各市町村、県の子ども・子育て会議等で保護者の就労状況の把握、調査結果を踏まえて話し合われると思いますが、皆様方の知識や経験を生かし、未来を担う子どもたちのためにご指導頂きたいと話されました。続いて、宮私幼PTA渥美巖会長より、会長の立場として振興・研修大会、バレーボール大会が計画通り実施された旨が報告され、8月には知事陳情を行い、今後も私立幼稚園の運営費補助金の充実に努め、また罹災家庭の園児に対して26年度も保育料減免が継続されていくよう働きかけていきたいと話されました。さらに、私学文書課の木川田真理子氏より、現行制度と新制度における幼保連携型認定こども園の比較につ

いて説明を受けました。

議事に入る前に、議長として利府聖光幼稚園長遊佐久雄先生、お人形社幼稚園長横澤行夫先生が指名され、定足数184名中出席者110名、委任状47名で過半数を超えたので成立し、議事録署名人として、くり幼稚園長高橋正一先生、矢本はなぶさ幼稚園長稲富将夫先生が選出されました。第一号から第三号議案は関連性があり一括審議され、平成25年4月1日から9月30日までの事業報告、一般会計、退職手当資金給付事業特別会計、受託事業決算、監査について報告があり、第四号から第六号議案では、一般社団法人設立に伴う事業計画等について審議され、承認されました。なお、質疑の中では退職手当資金給付事業特別会計の運営状況について質問が出ました。報告事項として東日本大震災義捐金の状況について報告され、その後、「花のおさなご」を斉唱し、佐藤宏郎副理事長の閉会の言葉で一切が終了しました。



平成25年度 総会並びに設置者・園長研修会

平成26年 3月7日(金) 研修会 10:30～ / 総会 13:00～ 仙台市戦災復興記念館

研修会 研修会では宮城県総務部私学文書課の木川田真理子氏、宮城県保健福祉部子育て支援課の泉田光氏・武山和広氏をお招きし、「子ども・子育て支援新制度」について、膨大な資料をもとにお話しいただきました。これについては、国自体決まっていない事項も多く、話す方も聞く方もすっきりしない場面もありました。法律自体の施行が間近に迫っていることもあり、果たして予定通り遂行されるか不安に思いました。

総会 13時から総会が開かれ、亡くなられた関係者へ黙祷を捧げ、鎌田文恵副理事長の開会のことば、「幼稚園賛歌」斉唱に続き、村山十五理事長のご挨拶をいただきました。大震災から3年、復興計画も復興期間から復興・復旧最盛期に入り、平成26年度に2園が移



転して再開することになった。子どもが安心して保育を受けられるように設置者への補助をお願いしたい。続いて来賓とし

て宮城県総務部私学文書課狩野宏史副参事より子ども・子育て支援新制度が本格化する。新制度は検討中のものも多いが、県としても貴会・関係機関と密接に連絡を取り合いたい、とのご挨拶をいただきました。また、宮私幼PTA渥美巖会長からは、従来1月の知事陳情に8月も加えて強力に訴えた。県の厳しい財政の中、格段のご配慮をいただいているが、PTAも宮私幼と一緒に子どもたちの良好な環境を実現するために進めていきたいとのご祝辞をいただきました。

議事に先立ち、議長をたんぼ幼稚園野村トシ子先生、六郷幼稚園伊藤和夫先生、議事録署名人として聖ドミニコ学院北仙台幼稚園齋藤潤子先生、岩沼南こばと幼稚園小川せつ子先生を選出しました。なお、当日は定足数184に対して出席103+委任52で総会が成立しました。第一号から第七号議案について協議され、人材確保の情報共有等が要望され、いずれも可決されました。次に施行規則の一部変更について吉岡弘宗総務給付委員長から報告され、村山理事長からは園長の保育士資格取得、会員の見直し、放射線量計の東電からの補償等についてお話がありました。最後に「花のおさなご」を斉唱し、佐藤宏郎副理事長の閉会のことばで終了しました。

平成25年度 宮私幼教育研究発表大会

平成26年 3月24日(月) 午前 9 時45分～午後 3 時30分 仙台市民会館

本大会については、後日発行される『平成25年度 幼稚園教育研究紀要』に詳細な記録が掲載されますので、ここでは紙面の都合上簡単な報告に留めます。

第1部 開会行事

鎌田文恵副理事長の開会のことは、清野信理事の指揮のもと幼稚園讃歌斉唱につづき村山十五理事長よりご挨拶をいただきました。年度末の本研修会が一年間の反省と次年度の展望のために有意義である。私立幼稚園を取り巻く環境は大変厳しい。大震災から3年、教職員とこどもたちのストレスがまだ残っており、一日も早い回復を願っています。今年4月にのびる幼稚園と閉上わかば幼稚園が再開します。宮私幼としても今後も支援を続けてまいります。平成26年度中には、認定こども園になるか否かをそれぞれの幼稚園の事情で決めなくてはなりません。新制度でも、私立幼稚園として10年、20年先を見通して幼児教育を推進してまいります。ご来賓の皆様のご協力をお願いします。続いて50名の先生方が永年勤続表彰を受けました。祝辞として、宮城県知事代理私学文書課千葉章課長より幼児教育の一役を担う本研修会は大変重要です。県としても、私立幼稚園と力を合わせ、子どもたちのより良い環境作りを進めていきたいと話されました。中島源陽PTA連合会副会長は、日頃、宮私幼と一緒に頑張って全力を挙げています。幼児期は想像力、ひらめきの可能性がスタートする大事な時期で、本研修会を通しての学びはPTAも同じ思いで、日頃の保育に活かしていただきたいと話されました。佐藤宏郎副理事長の閉会のことばで終了しました。



第2部 分科会

第1分科会「親子間の愛着形成」、第2分科会「基本的生活習慣の確立」、第3分科会「豊かな経験活動による学びの促進」に分かれ、各分科会とも2名ずつの発表があり、司会者のスムーズな進行と助言者による適切なご指摘、そして活発な質疑応答がありました。



◀第1分科会(上)、第2分科会(中)、第3分科会

第3部 講演会

講師 宮城教育大学准教授 越中 康治 氏
演題 「学ぶ土台づくりについて」



冒頭、子どものけんかに対して、先に叩いた子とたたき返した子それぞれに何と言うかという質問から入りました。前半に「道徳教育の二分法」「保育者の専門性の根幹にあるものは?」「保育指導において最も大切なこと」「宮城県教育委員会『学ぶ土台づくり』推進計画」「愛着の個人差と母親の行動の特徴」「親子間の愛着形成促進に大切なこと」「保護者に対する支援を考える上で、基本的習慣の基盤となるのは?」「子どもの自主性を引き出すために」の小テーマについてスライドを使いながらお話になり、後半に入る前のブレイクで会場に「人間はなぜ遊ぶのか?」を問いかけました。再度本論に入り、「遊びの古典理論」「遊びの現代理論」「保育本来の遊び」「特別支援教育の影響によって保育の根幹が揺らいだ」「障害のある幼児の保育に関する意見」「障害特性論に基づく遊び」に基づいて具体的に分かりやすく話されました。これからのキーワードとして「幼児期に育てるもの」「接続期に育てたいこと」をあげ、最後に「学ぶ土台づくり」とは、保育者の皆様が日々やっていることそのものであると結論づけました。

幼 な 子 と と も に

幼稚園訪問記・ひかり幼稚園



〒989-0243 白石市沢目21-1

園児数 271名 9クラス

(満3歳児27名、3歳児53名、4歳児90名、
5歳児101名、障がい児保育 あり)

平成26年3月1日現在

前日の寒さとはうってかわっての日差しの柔らかな1月27日(月)、白石市のひかり幼稚園を取材訪問させていただきました。10時近くの訪問でしたので、いたるところから元気に遊ぶ園児たちの声が響きわたり、活気に満ちあふれておりました。園舎は何度かに分けて増築され、学年ごとに階段や装飾も工夫され、保育環境もよく考えられており、参考になる



園長 風間文静先生

ところがたくさんありました。玄関先にある学年で作った大きな桜の木の制作が迎えてくれました。廊下の中央に可愛いテーブルが置いてあり、廊下を歩く際、右、左を歩くように工夫されておりました。

インタビューには、園長風間文静先生と相原まゆみ先生にお応えいただきました。

園長先生からのメッセージ・教育目標

*喜びも悲しみも人の身になって感じられるこどもに(合掌)

*物事を正しく把握して、自分なりの感じ方、考え方をもち、行動できる子どもに(感謝)と仏教保育を根底に幼児教育を進めております。

ひかり幼稚園の特に力を入れている保育は

主役は子ども“自分のことが自分でできるようになる”ための誰にでもわかる環境づくりを大切にしており、『ひかり流ユニバーサルデザイン』を取り入れています。子どもはできないのではなく、やり方がわからないだけであり、どの子にもわかる環境をということとで「生活の仕方がわかる」ための自分の場所、通園ブッ

ひかり幼稚園では

保育時間 8時30分～ 13時30分まで

預かり保育 降園後13時30分～18時40分まで

費用 月12,000円

給 食 なし

(毎週火曜日はお料理の日でおにぎりかご飯だけの持参 牛乳なし)

未就園児教室 月5回

めだかのひろば 親子登園 1歳からのお子さんとお母さんたちの広場 ほっとルームはめだかのひろばの会員を対象に預かり保育を週2回しています。

バス送迎 あり 3台で8コース

20分から40分くらいのコース

クにシールを貼る作業、身支度の仕方やロッカーの使い方、並んで待つ、遊び方がわかるように先生方の教材研究は欠かせないようです。『チーム保育』クラス担当制ではなく、チームを組んで保育を行っており、子どもの育ちや活動に合わせてチームを組み、必要に応じたグループ分けや少人数グループでの保育を実施しているそうです。



『コーナー保育』子どもの発達や子どもの興味に合わせて一人で遊べるコーナー(手先を使う遊具・絵本・制作など)や、人と関わって遊べるコーナー(すごろく・こま回し・ゲームなど)を取り入れ、自分で選んだ遊びに集中して遊べる環境を作っています。

当日は、天気も良く学年ごとの場所でコーナー遊びが行われており、節分に向け制作コーナーでは福耕作りに取り組んでいる子どもたちも見られました。ひかり流ユニバーサルデザインもいたるところに見られ、大変参考になりました。また、最後にホールで年長さんが阪神大震災の時に作られた歌『幸せを運べるように』を披露してくれましたが、一部歌詞を替えていますがということです。とても心に響く歌でした。



『とてもすばらしい歌声ですね。皆さんも元気で過ごして下さい』とたくさんの拍手を送り、訪問を終えました。

公開保育コーディネーター（評価者） 養成講座に参加して

研究委員 緑ヶ丘第二幼稚園園長 三塚 薫

平成26年1月23・24日、京都での全日私幼稚園教育研究機構の研究研修担当者会議に宮私幼理事長の命を受けて出席してきました。

研究機構理事長の田中雅道先生と研究研修委員長の安達譲先生より、研究機構では第三者評価のできる体制づくりを目指しており、手始めに各県から1名、養成講座の全ての日程の研究会に必ず参加できる者を出して評価者の育成に努めるということが伝えられました。

一般的に園長、教職員が自己評価を実施し、第三者評価としては学園の理事や評議員、或いは学識経験者や地域の方でその園を知っているメンバーが幼稚園を評価するものとされています。しかし園内だけでは独善的になってしまいがちということでした。そこで研究機構で実施する第三者評価は、保育所などで行っている書類や帳簿だけでなく、私学の独自性を守るために保育そのものを評価し、自助努力によって、よりよく教職員の学びが深められるようになるための公開保育を中心とした第三者による評価をする体制を目指すというものでした。その際、評価者は、学園には直接関係がなく、幼児教育を理解しつつ客観的にその園の独自性の中で幼児が育つ姿、教職員の園内研修の在り方をその園の園長、教職員と面談しながら公開保育を通し、さらに一緒に学び、評価するという役割が必要であると述べられました。

第1回目は平成25年6月27・28日、東京で事前講義からスタートした公開保育コーディネーター養成講座で、講師は大妻女子大学の岡健教授。評価者は評価するのが目的ではなく、それを受ける園の教職員の話し合いのサポート役で、ファシリテーターという役割であること、みんなが話し合い雰囲気づくりとその園の良い点を確認し合いつつ、先生方自身が園の課題を探り、課題達成を阻害しているものは何か、そして将来に向けての取り組みをサポートをするということでした。ファシリテートは、容易にする、円滑にする促進するという意味で、会議や研修の進行、研修し易い人間関係づくりがその役割であること、場を和ませる手法としてアイスブレイク等が紹介されました。また、園の教職員が等しく園内研修で話せる一つの手法として田の字法、KJ法が紹介されました。

2日目は東京の武蔵野東第二幼稚園での公開保育。実際に見せて頂き、保育の中で気づいたこと、先生の指導のいいところ、幼児の遊びの様子がいいところ、環境構成で工夫しているところ、疑問に思ったことを受講者がポストイットに書き込み、張り出された指導案に貼っていくという実践をしました。保育終了後、園の先生方と田の字法を使って話し合いを実践。岡教授がファシリテーターの役割を実践して、同園の先生方は自分の保育の課題と改善の方向が見えてきたと、笑顔でお話しな

さっていたのが印象的でした。

今までの公開保育というと、公開を引き受けた園の教職員が見学者から保育を非難され、自信を失うということがあった、という反省からこうした前後のケアを含めた公開保育の第三者評価を実現していきたいということでした。公開園の園長や教職員が公開して多くの学びになり、公開して良かったという前向きになる公開保育の在り方を探って辿り着いた方法とのことでした。その後受講者は、園内や研修会でファシリテーターを実践したレポートを提出しました。

第2回目は8月24・25日、福岡での幼児教育実践学会。1日目はぶどうの木主宰の佐々木正美先生の記念講演「人間関係に喜びを感じる子ども」と研究機構理事長の基調講演「保育の質と縦断研究」。午後は東京大学の秋田喜代美教授のシンポジウム「若い保育者を育てる保育評価の在り方」。実践学会では九州の幼稚園によるポスター発表が開催されました。テーマに基づいて進めた研究を各園の特徴を生かして写真や表で分かり易くポスターで展示。

下記の写真は、ポスター発表の様子です。



2日目はファシリテーションワークショップ。講師は引き続き岡教授で、園内研修の取り組みを伝達型会議から創発型会議に転換していくといいのではないかと提案がありました。園の全ての教職員が主体的に保育に臨むための会議を進めるには、園の教師一人一人が、第1段階は現在取り組んでいること、第2段階は現在の具体的課題、第3段階は不安なことや障壁となっていること、第4段階

は目標という視点で自分の保育を見つめ直し整理していく研修について学びました。

実践として6、7人のグループを作り、テーマを「ファシリテーターとして」に絞りました。最初にポストイットに個々に書き出し、それを模造紙4分の1に折って下記の表のタイトルに沿って張り出しました。さらに話し合いながら分類していくという実践を行いました。実践してみて、課題が明確になり課題の共通理解が図られ、今後どう取り組んでいけばいいかという展望が見えてきました。特に不安なことや障壁となっていることを表現することによって、自分だけではないという安心感が生まれ次への意欲にも繋がりました。この手法は、園内研修で担任が自分の保育を振り返るのにも役立ち、さらに園内の共通理解と課題の明確化に役立つと感じました。

下記に挙げたのは田の字法の一例です。

現在のポジティブ 現在取り組めていること	未来のポジティブ 目標
現在のネガティブ 現在の課題	未来のネガティブ 不安なことや障壁

第3回目は平成26年1月23・24日に京都開催で、実際に評価者として第三者評価の希望があった園にどう関わるかという岡教授の講義がありました。評価者は2、3人でチームを組んで公開保育をコーディネートしていくようになるであろうというお話で、県内ではなく近隣の他県へ赴くというものでした。

1回目は事前訪問、2回目は事前研修、3回目は公開保育—この公開は有りのままの普段の保育の公開なので、特別にこの日のための保育をする必要がないとのこと、4回目は公開保育後のまとめとフォロー。その後、研究機構名で第三者評価表を発行するという具体的な流れについて研修しました。

最後に公費が使われている私学にとって保育所同様に第三者評価が法定化されるのは必至の現状で、客観的でありながら、私学の独自性を守るため機構の第三者評価がよりよいものとなるようさらに実践を重ねながら熟考していきたいという田中先生のお話で1年間の養成講座が終了しました。養成講座に参加した研究担当者は、具体的な実践を26年度に秋田で行われる東北大会で実施するということでした。

26年度の夏の宮私幼の研修では、ファシリテーターという役割の理解と人材を広げていくために地区の研修担当の先生方の研修をしていくことや、園の主任や学年主任が学ぶことにより、園内研修の在り方が変わるものと考え、研修を企画しています。各園の園長先生のご理解とご協力を頂き、当該の先生方のご派遣を宜しくお願い申し上げます。

知 事 陳 情

今年も1月を迎えると平成26年度の予算編成が本格化するので、1月14日、宮私幼理事長、副理事長、宮私幼PTA連合会役員、宮私幼振興対策協議会の計15名（園児2名）が村井嘉浩知事に陳情に行ってきました。「平成26年度私立幼稚園に対する県補助金等引き上げに関する要望書」は例年と変わりませんが、大きな曲がり角にきている私立幼稚園の実情から真剣な陳情となりました。

その要旨は、

1. 全国42位という、私立幼稚園運営費補助金順位（学校法人分）を、国の財源措置と県費かさ上げにより、宮城県の各種統計順位や県財政力に相応しい順位に改善するよう要望いたします。
2. 宮城県私立幼稚園連合会の退職手当資金給付事業に係る県補助金を、来年度1,000分の1引き上げ、1,000分の22になるよう要望します。



陳情には宮私幼PTA連会長・宮城県議会副議長渥美巖氏、同副会長・県議会議員中島源陽氏、同常任委員長・県議会議員寺澤正志氏、同常任委員・県議会議員佐々木幸士氏にも同行していただきました。お母さん代表として岩沼さくら幼稚園の霜山加奈子さん、伊藤美雪さん、そして何より霜山桜太君、伊藤陽菜ちゃんの力強いびっ子の応援を得ての陳情となりました。村山理事長、PTA会長が陳情の主旨を強く訴え、それに対し、知事は子どもが増える施策を通して人口が増え活気のある県にしたい。そのためにも私立幼稚園の皆様がやりがいのあるようにがんばりたいとのご返答をいただきました。

その後、県議会議長安藤俊威氏を訪ね同様の要望を行いました。同席上、副議長となられた渥美会長が攻守所を変え、県の裏事情を織り交ぜ、議長と共に要望を県議会総務委員会で取り上げるようにしたい旨の返答をされました。

【表紙によせて】 ひかり幼稚園での保育の様子